

カンパのお願い

戦後 70 回目の春がめぐってきました。皆様、元気にご活躍のことと拝察いたします。

さて、大変恐縮ですが、カンパのお願いです。

都高教退職者会は、会員の皆様の支えを持ちまして、年に 2 回の「都高教退職者会ニュース」の発行を中心に、元気に活動を継続することができました。改めて感謝申し上げます。

都高教退職者会はこれまで、日教組退職者協議会(日退教)、都労連退職者協議会(都退協)の仲間とともに力を合わせ、年金、医療、介護、憲法と平和を守る活動等を展開し、健康で安心できる老後保障の取り組みを行ってきました。

また、都高教退職者会の仲間とは、年 1 回の総会以外に、「東京平和・歴史散歩」を実施して都内各所をめぐり、小出裕章さんたちをお招きしての原発学習会、澤地久枝さんたちにお出でいただいたの憲法学習会、花見に囲碁大会、5 月 1 日のメーデーへの参加と懇親会等を取り組んできました。

昨年新たに、日退教・地公退の平和フォーラムへの参加によって、反原発 1000 万人アクション、戦争をさせない 1000 人委員会の呼び掛けによる国会包囲行動等へ積極的に参加してきました。

そして今、辺野古新基地建設を巡って、極めて危険な動きが出ています。

昨年、名護市長選、同市議選、沖縄県知事選、衆議院選の 4 回の選挙において、辺野古新基地建設反対の民意が示されました。しかし、政権首脳は上京して翁長知事の会見の求め誰一人応じようとしません。また、反対の意思を示す県民に対して、海上警備艇が頭上から襲いかかる等の対応をしています。

都高教退職者会は、沖縄高退教や沖縄県退教の仲間と連帯して辺野古の新基地建設反対の取り組みを強めていきたいと考えています。そのために、都高教退職者会へのカンパと並行して、沖縄との連帯・交流をさらに深める取り組みを進めていくためのカンパを要請するものです。

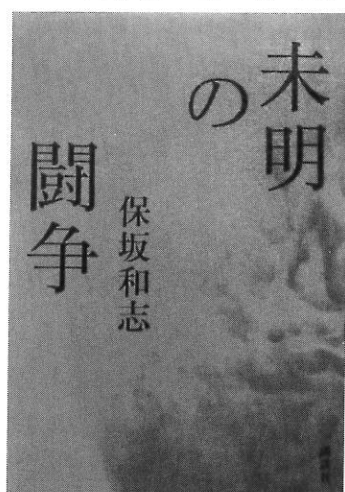
都高教退職者会の活動を継続し、さらに発展させていくためには、何分、資金不足です。3000 人の会員の皆様にニュースを届けるために、1 回につき、約 40 万円の費用がかかります。このために、都高教退職者会計の大半は、年 2 回のニュース発行に費やされます。

まことの恐縮ですが、今年度も改めてカンパのお願いをさせていただきます。皆様の暖かいご協力をお願いいたします。

今回、「都高教退職者カンパ」に加え「沖縄カンパ」へのご協力をよろしく願いたします。

2015 年 春 都高教退職者会幹事会

読書「未明の闘争」(保坂和志)講談社



幽冥の世界のお話。小説の冒頭から 3 行目の一文。

「私は一週間前に死んだ篠島が歩いていた。」???

主語と述語のぶれ。こうした表現は随所に。語り手と主人公(登場人物)の意図的な不一致をはかっているところも。

池袋駅「ビックリガード五叉路」を取り巻く店舗の変遷や名称、信号が変わって交差点を行き交うたくさんの多くの人々のそれぞれの、事細かな描写。9 年前の夢の鮮明な内容でありながら、内容は現在時点(執筆時点)。

しかし、「闘争」とは何か? かつて書いた「カフカ的世界」でもあるか?

いな、むしろ作者が初期の頃から追いつけている(こだわり続けている)「闘(いき)」の世界の具象化。

その通奏低音として、一人ひとりのネコたちとの出会いと生活、そして死、鎮魂曲を響かせている。まさに分明ならざる「闘」への「闘い」が存在する。

(「おやじのつぶやき」blog 2015.1.4 より)

今どきの「落語」案内——初心者のための

アズキ アライ

第7回 立川流のベテランたち(その1)

立川流のスターたちのうち、志の輔さんについてだけ書いて(退職者会HP)、談春、志らく、談笑の3人については、まだ書いていません。近日HPに書きます。で、今回は立川流のベテランたち——主に、落語協会からの離脱前から談志の弟子だった人たちについて書きます。

立川談四楼(1951年まれ)——志の輔と双璧、立川流最高の名手

談四楼さんは、談志に入門してすでに45年ほどになります。かつて、その実力にもかかわらず真打ち昇進がならず、それが直接の引き金になって、談志とその一門の落語協会脱退・立川流旗上げとなった、因縁の噺家です。小説やエッセイの名手としても知られています。

小さな落語会

後進の志の輔・談春・志らくといったスターたちが華々しく大ホールで演じる中で、小ホール、神社、居酒屋といったささやかな会場で演じています。そして上野広小路亭の昼席・夜席、日本橋亭昼席、立川流日暮里寄席といった「立川流の定席」に、トリか中入り前に出演し、立川流を支える大黒柱です。立川流が国立演芸場以外の本当の「定席」には出演できない中で、これら「立川流の定席」は、若手の貴重な出演の機会、実地の修行の場です。ここで人気が出ると、若手たちはホール落語へと方向転換するようですが、そういう人気の若手の落語なんかとは比べるのも愚かな名手が、談四楼さんです。

ほとばしる生命力

談四楼さんの高座では、まずその内からほとばしり出る生命力に圧倒されます。つややかな顔色、朗々とハリのある低音、語りの熱さ、登場人物への熱い感情移入、その情の深さ。人が生きていることの最も魅力ある姿、生命そのものの輝きが高座を満たします。その熱さは煩わしいものではありません。語り口にも、表情にも、人生を充実して生きてきた人ならではの滋味があるからです。

軽み、テンポ、情の深さ

「富久」では、明るい口跡、江戸弁の切れ味で、当たりくじに正気を失う小心者のおかしみを、人物になりきるうまさで演じきります。滑稽噺の「権助魚」では、飯炊き男のとぼけた味と頓狂な会話の妙を、軽みとすばらしいテンポで一気に描き、笑いの渦中を走り抜けます。

人情噺「甲府い」では、店先のおからを盗み食いしようとした伝吉に語りかける豆腐屋の主人の語りぶりに引き込まれます。伝吉の目をじっと見る主人の顔の傾き、その主人の目の表情、手の動き、感情とともに動く頭の揺れ、それらに、演ずる談四楼さんの人生の厚みを感じます。

「三年目」では、おしどり夫婦の細やかな情愛を、やわらかく、低めで、よくひびく声で、その声を張り上げることなく、しつとりと演じます。一転、自分の死後に夫が再婚するのではと気をもむ若女房の愠気は、声を張って明るい滑稽味で楽しく演じます。



最高の「らくだ」—— 圧倒する無頼の息吹

無頼の乱暴者らくだが死んだ。そこへあらわれたその兄貴分。彼らの被害者の屑屋。この噺は気弱で猫よりもおとなしい屑屋が、らくだの死骸を抱えて「カンカンノウ」（江戸後期にはやった踊り）をやることを強要されたり、弱虫の屑屋が酒を飲むにつれ、とんでもなく気の荒い大トラに変身するといったところが、見せどころ、聞かせどころです。この噺、談四楼さん以上に生彩に富む語りをする落語家は、現役では多分いないと思います。屑屋を脅すらくだの兄貴分の低音の迫力。小心の屑屋の逃げ口上の早口、死骸を抱いてカンカンノウを歌う屑屋の恐怖と絶叫、その踊りを見せられた大家の恐怖と絶叫。酔った屑屋は初めはらくだへの恨みと泣きごとを湿っぽく、一転、怒濤の怒りの噴出。そして兄貴分を脅す凄み。これらを声を変え、自在に高さや音量を操り、圧倒的な熱量で演じきります。人物たちが生きて躍動します。

30分で演じきる。古典の形を崩さない。

立川流の人気者たちは、ホール落語、特に独演会が多いためでしょう、噺を長くやる傾向が強いのですが、談四楼さんたちベテランは、トリでもおおむね30分で演じます。落語協会離脱前の寄席でやった体験を今も大切にしているのでしょうか。大作でも30分程度で演じるので、冗漫な無駄がありません。

また、自分なりの解釈で古典を膨らますという立川流に多いやり方も、ベテランたちはあまり採りません。自分流の解釈をあらわに持ち込むことはせず、語り口やちょっとした工夫に、作品の解釈を滲ませます。

もっとも、落語評論で高名な広瀬和生さんは、「従来の演り方とは全く異なる」「独自の演出法」が談四楼さんの魅力だとしています。また、「古典落語の・・・様々な言い回しに、談四楼は必ず自分なりの工夫を加えて・・・観客に提示する。だから、現代人にとって非常に判りやすく」と評しています（『この落語家を聴け！』）。さすが、落語会に通いまくっている広瀬さん、精緻な指摘です。ただ私は、談四楼さんの演出は、伝承されてきた古典の骨格をそんなに変えているとは思いません。判りやすい言い換えは、そのとおりで、志の輔さんとも共通する工夫です。

こんな凄い落語家が演じるのに、日暮里寄席で談四楼さんが「らくだ」をやったときは、客はわずかに30人ほどでした（上野広小路亭や日本橋亭だともっと多いが）。落語協会など他の諸団体も含め、現在の落語界で最高峰の一人です。是非是非、聴きに行ってください。

以下に紹介する落語会の詳細は、ネットで「立川流一門会」を検索してください。

| | |
|----------|------------------------------------|
| 立川流日暮里寄席 | 毎月上旬、平日の夜、2日間。日暮里サニーホール（JR・京成、日暮里） |
| 立川流夜席 | 毎月5日間。お江戸上野広小路亭（上野鈴木から2分ほど）。 |
| 広小路寄席 | 毎月2日間、平日、昼。お江戸上野広小路亭。人気あり。早めに会場へ。 |
| 日本橋亭昼席 | お江戸日本橋亭。毎月2日間、平日。メトロ三越前、地上出口から2分ほど |

談四楼さんの定期独演会 詳しくは、「立川談四楼お知らせブログ」で検索できます。

- | | |
|---------------------|--|
| ①下北沢立川談四楼独演会 | 偶数月の15日に開催、18:00開演。 当日券のみ。会場は下北沢の北澤八幡神社参集殿。 |
| ②経堂落語会 雑把亭 立川談四楼独演会 | 会場は経堂さばのゆ（居酒屋）。 経堂さばのゆ 03-5796-6138 |

注:写真は、「立川談四楼オフィシャルサイト だんしろ商店」HPより。

映画「日本と原発」上映会のお知らせ

丸2年の歳月をかけて、二人の弁護士（河合弘之・海渡雄一）が作成したドキュメンタリー映画です。昨年末に東京で公開され大好評で、今なお全国で自主上映会が行われています。都高教退職者会幹事の小野啓一さんも静岡県三島市で上映運動を担っておられます。

詳しくは、<http://www.nihontogenpatsu.com/> で調べて下さい。

原発学習会

6月5日（金）18:00～

日本教育会館7階
707

「脱原発社会が新しい経済社会を創る」
（戦争・経済危機・格差を克服する道）

講師：金子 勝さん

（経済学者・慶應大学教授）

「脱原発こそ

日本経済を明るくする鍵だ」



平和といのちと人権を！

5・3憲法集会

5月3日

13:00

～15:30

会場：臨港パーク（横浜みなとみらい地区）

最寄駅：みなとみらい駅

お話 大江健三郎さん他

主催 平和といのちと人権を！
5・3憲法集会実行委員会

辺野古・高江支援ツアー

I. 日程

7/5（日）17:00 那覇・県庁前集合 交流会

7/6（月）8:50 那覇・県庁前集合

那覇—————→辺野古

終日座り込み参加

9:00出発 貸切バスで移動 11:00

辺野古—————→名護ホテル（泊）夜は学習会&交流会

16:00出発 貸切バスで移動 17:00

※1

※1 沖縄高退教の方において高江の話

7/7（火）9:00 ホテル玄関前集合

名護—————→高江

座り込みに参加

9:00出発 貸切バスで移動 10:30

高江—————→那覇・県庁前で解散

14:00出発 貸切バスで移動 17:00

II. 飛行機+2泊ビジネスホテル（那覇と名護） パック料金

3月末～4月に安いプランが発売されそうなので、まだ未定。

貸し切りバス代も含めて5万円前後。

問合せ先：寺井律子（都高教退職会事務局長）

携帯 08034210145

メール hati11mel13zeriha11@ezweb.ne.jp